

第 2 回 高 校 生 東 南 ア ジ ア 小 論 文 コ ン テ ス ト

最 優 秀 賞

神 戸 女 学 院 高 等 学 部 1 年

田 中 陽 帆 さ ん

【 本 文 】

ク リ ス マ ス の ど ん な と こ ろ が タ イ 人 の
心 を と ら え な ぜ 広 ま っ た の か 、 3 つ の 要 因
に ま と め て み た 。 1 つ 目 は 、 外 国 へ の あ こ
が れ 、 好 奇 心 。 こ の 夏 に 家 族 で タ イ を 訪 れ
た 際 、 と て も 印 象 に 残 っ た 光 景 が あ る 。 仏
像 が 取 り 囲 む 寺 院 の 回 廊 で 、 ホ ワ イ ト ボ ー
ド を だ し 、 い く つ か の グ ル ー プ に わ か れ て
、 日 曜 の 朝 に 、 熱 心 に 勉 強 を し て い る 制 服
姿 の 大 勢 の 子 供 達 。 ホ ワ イ ト ボ ー ド に は 、
英 語 、 中 国 語 な ど の 外 国 語 が 書 か れ て い た

。まさに仏様に見守られての現代の寺子屋だ！と思った。外国語を熱心に学ぶ子供達、又は学ばせている親達にとって、世界中の人々が盛り上がるクリスマスという欧米の華やかなお祭りを、自分達も楽しんでもみたいと思うのは当然であろう。

2つ目は、タイでは観光が大切な産業の一つであるということ。2016年タイを訪れた外国人旅行者は3000万人を突破、過去最高を更新した。観光産業の市場規模は9兆円越え、10年後には2倍に拡大するといわれている。タイにとって、クリスマスを取り入れそれにあわせて商業を展開することは、年末年始の外国人観光客受け入れにあたって重要であったと考えられる。

3つ目は、仏教とキリスト教が共存可能な宗教である点。熱心な仏教国であるタイ。仏教とキリスト教があまりにも相反するものであれば、いくら外国へのあこがれ、

好奇心、経済的恩恵があっても、スムーズに広まるのは難しい。仏教の基本思想は「修行して悟りを得、苦しみから抜け出そう」であり、「唯一神の信仰」を唱えるキリスト教やユダヤ教、イスラム教などの宗教とは少し趣が異なる。信仰ではなく思想に基づく宗教観ゆえに、信仰に基づくキリスト教とは対立するポイントが少なく、キリスト教のお祭りであるクリスマスを、タイの人々はすんなり取り入れることができたのであろう。

今年の夏、タイを訪問した際、20歳の誕生日を迎えた娘親子と一緒に喜捨をする機会があった。彼女達は外国語として英語も中国語も話せ、日本を含めた海外旅行もしたことのある親子だった。きっと彼女達も12月にはクリスマスを楽しんでいるだろう。しかし、誕生日にはお坊さんにたくさん喜捨をきちんと行っていた。電車で席をゆずられた小さな子供も、きちんと両

手をあわせてお礼を言っていた。乗り合いバスで家々の間から遠くに仏塔が見えた時、隣の老人が仏塔にむかい、そっと手をあわせていた。

タイでも日本と同様、クリスマスは皆が楽しめる国民的な楽しい行事となりつつある。しかし、それによりタイの人々はタイの宗教をないがしろにしているわけではない。内にもっていた大切なものを失わず、楽しいことを愛し、外のものを柔軟に取り入れるタイの国民性が大変よい方向に現れているのが、タイのクリスマスだと私は考える。